

## 経済ポケット ジャーナル

### ★神戸の特産、ケミカル

夏物の見本市開かれる

日本ケミカルシューズ工業組合（石井喜司理事長）が主催する「夏のケミカルシューズ見本市」が去る二月十五、十六日、市立中央体育館とサンボーホールの二会場で開かれた。この靴を扱う商談の場として国内最



カラフルな新作が揃ったサンボーホール会場

大の見本市には、組合加盟の二百六十八社から婦人靴、サンダルなど四万点が出品され、全国から集まった卸業者たちとの商談に活況を呈した。



今夏の特徴としては、白を主体に淡い色調が多く、ヒールも比較的低いのが、最近の多様化する消費者のニーズに合わせてか、やはり多種多様。価格は昨年並みだった。

### ★西神IPへの

工場移転計画すすむ

神戸市では、神戸経済の高度化を図って垂水区西部に造成している西神インダストリアルパーク（西神IP）総面積二四〇畝、うち工場用地一五六畝への進出企業を公募していたが、日本電気、国際試薬など単独進出企業九社と、神戸機械金属団地協同組合、西神機械金属団地協同組合加入の二十六社、計三十五社の申し込みがあり、第一次募集を締切った。

早速、去る二月二十日、トップを切って神戸機械金属団地協同組合加盟の中小企業十二社の起工式が行なわれた。同協同組合はいず

れも住工混在地の企業で、経営の合理化、市街地の環境整備をめざして結成し、西神IPへの移転を計画していたもので、共同金融、共同受電・受ガス、共同警備、共同の通勤送迎バスの運行などの集団化のメリットを考えていて、来春には一部操業開始される予定。

### ★「神戸の中堅130社」

日経より出版

日本経済新聞社から「神戸の中堅130社」が発刊された。これは昭和五十二



「神戸の中堅130社」

年九月に出版されてベストセラーとなった「神戸の中堅100社」の改訂増補版で、県下に本拠を置く非上

場の優良企業のうち、各業界における指導性、経営戦略の特異性などがひとときわ光るものを百三十社とりあげられている。業績をはじめ社風や経営方針をおりこんでの内容で、活力あふれる中堅企業群の実態を紹介している。一、三〇〇円。

### ★KFA 新しく発足

任意団体の神戸ファッションアンソシエーションは、協同組合神戸ファッションアンソシエーション（通称・KFA）/組合員三十五社を去る二月に設立。役員は次の通り。

理事長／川上勉、副理事長／木村豊、理事／柿本公資、木口衛、杉田良昭、高畑明、浜本積広、細川教夫、松岡賢蔵、三浦幸衛、監事／浅井義一、柏木幸也、事務局長／田中勇二郎

### ★KOBEOフィスレディ★



松芝 美津子さん（19才）

＜神戸三愛関西営業部総務課経理係＞

「会社にくるのが楽しくて」「オフィスの雰囲気もいいし、男性も親切でやさしい人ばかり」と話す松芝さん。昨年入社。経理関係の仕事を中心に受付も担当しており、高校時代から三愛を目指してたというだけあってファッションにも関心が深い。理想の男性は——「一見、冷たくて隠れたやさしさのある人」とか。休みの日にはスカートを作ったりする女の子らしい面もある可愛い人。長田区在住。（神戸野田高校卒）

# 異人館に(ラインの館(旧オーバーライン邸)) ユーハイムオープン!

ぶらり神戸の道すがら  
ユーハイムでティータイム。

異人館の外観をそのまま喫茶室とケーキコーナーに。  
北野町のユーハイムで、  
伝統の味と異国情緒をお楽しみください。



- 毎週月曜定休
- 営業時間AM10:00→PM6:00
- 神戸市生田区北野町2-78ラインの館1F
- ☎(078)222-6266



# オリエンタル レディスクラブ

会員募集中



月例グルメの会：シェフによるメニュー説明

年会費：お一人 5,000円

割引：オリエンタルホテル、六甲オリエンタルホテル  
での宿泊、飲食の際サービス料10%割引いたし  
ます。その他いろいろの特典がございます。  
特別催：随時、会員のための特別催をいたします。

お問い合わせ  
オリエンタルレディスクラブ事務局

神戸市生田区京町25 オリエンタルホテル内  
☎(078)331-8111

素材いろいろ、クリーニングもいろいろ  
ファッション・クリーニング



あなたのファッションをFRESH UP!

**ニシキヤ**

〒100 東京都千代田区紀伊田町1番10号 03-781851 2440(代)

山手店 三宮店 熊内店 宝塚店



きもの工芸

おんがら屋

神戸

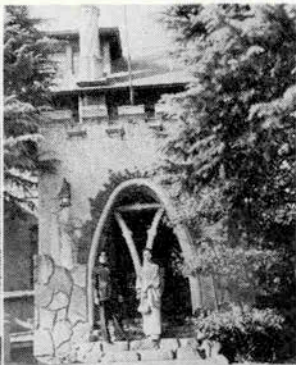
本部・仕入部  
本 店  
さんちか店  
神戸市東灘区青木五丁目一五〇一五  
神戸市生田区三宮町二丁目一五  
神戸市生田区三宮町一丁目一  
電話〇七八一四五二一五二九〇(代)  
電話〇七八一三三三一五二九八(代)  
電話〇七八一三三三一七〇〇

東京

銀座コア店  
銀座メルサ店  
渋谷東急店  
日本橋東急店  
東京都中央区銀座五丁目八一〇  
東京都中央区銀座五丁目七一二  
東京都中央区道玄坂二丁目二四一  
東京都渋谷区道玄坂二丁目二四一  
東京都中央区日本橋通一丁目九一二  
電話 〇三二五七三二五二九八(代)  
電話 〇三二五七四一八〇六五(直)  
電話 〇三四七七三三四〇九(直)  
電話 〇三二二一〇五一二(代)  
(内線二九四)

●特集／神戸っ子があるく

# 私自身の神戸



六甲会館にて



垂水の海岸にて



住吉川にて



北野天神宮にて



福河神社にて

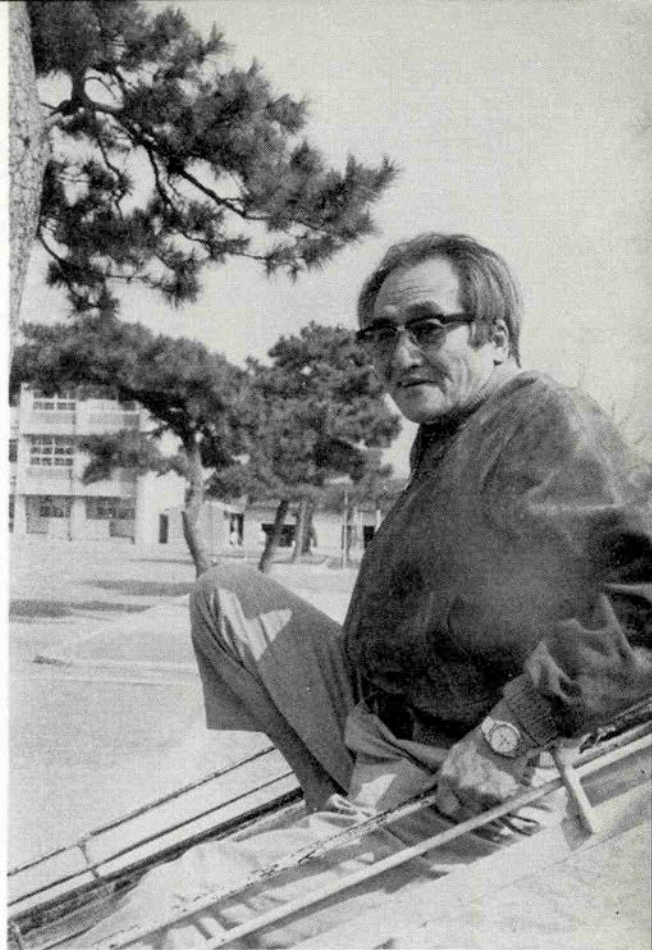


住吉宮にて



元町一番街にて

- 深江界限―春木 一夫 〆作 家
- 岡本界限―朝比奈千足 〆指 揮者
- 六甲界限―鈴木 正幸 〆神戸大学 助教授
- 北野界限―白石 弘子 〆染色 家
- 元町界限―伊藤 ルミ 〆ヘアニスト
- 平野界限―武田 則明 〆建築 家
- 垂水界限―灰谷健次郎 〆作 家



本庄小学校の松は西国街道の道筋だった。校庭のスベリ台で筆者。

## 「私自身の神戸〈1〉」

# 東灘・稲荷筋散策

春木 一夫〈作家〉

私の家から約一〇〇メートル西へいったところ。二車線ほどの通りが、南北に通じている。東灘区深江のメインストリートで、稲荷筋と呼ばれている。山ろくと海のそばにある二つの稲荷神社を結ぶ線だから、稲荷筋と名づけられたものらしい。私の散歩道の一つで

ある。

山ろくに鎮座する稲荷神社は立派な社であるが、海浜に近い白玉稲荷社は小っぱけである。大日神社の片隅に、間借りをしているような格好だ。稲荷神社の奇魂くしんが、深江浦にやってきたのは、今から千二百六十年ほど前の霊亀元年

(七一五)であると伝えられている。「基のみこしが、深江の踊り松に海上からたどりついた。深江は漁村だったから、おそらく海神だったのであらう。後に北方の方が開けて田畑になった。山の神が祭られ、山の神と海の神が習合して稲荷神社となったから、二つの稲荷社があるのではなからうかと推察している。大日神社の稲荷社は明治四十一年に踊り松から移されたものだ。本家争いをすれば、小っぱけな白玉稲荷の方に、軍配があたりそうである。

「お稲荷さんの祭神は、狐なの？」

本誌編集部の小泉美喜子さんに

### ●メモ

阪神深江―大日神社稲荷社―踊り松旧蹟地―本庄小学校―進徳丸―「灘っ子」東灘散策参考までに春木さんの下記の本書をご紹介します。

灘五郷歴史散歩（創元社）380円

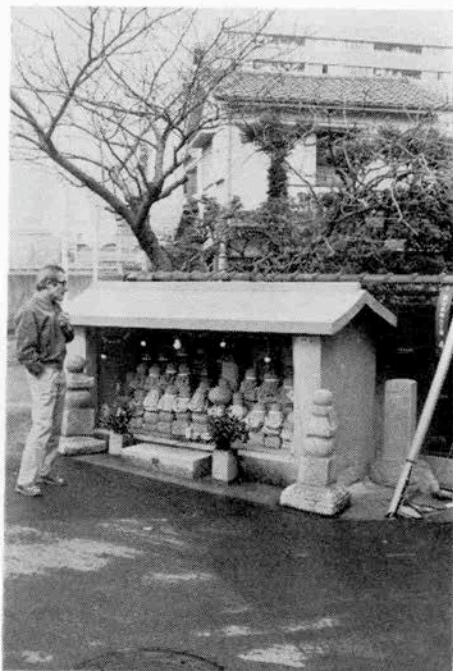
兵庫史の謎（神戸新聞出版センター）980円

阪神間の謎（中外書房）1,300円

たずねられ、情けなくなつた。

祭神は宇迦御魂である。「食」の意味であつて、一切の食物をつかさどる神だ。狐はこの神の使いだとされている。ウカノミタマは別名を御饗津神と呼ばれており、これを三狐神と書いたために誤解を生じた。あるいは、お稲荷さんは仏教でいえば、叱根尼天だという本地垂迹説がある。ダキニテンは玄狐に乗っているの、これから転じたのでは……。

大日神社から西へ約五〇メートル。高梁橋のたもとに、踊り松田蹟地がある。高梁川改修に際し、多数の一石五輪塔が出てきたので、これを集めて「踊り松地蔵」としている。五輪塔は江戸時代のもので、地蔵と名づけたのであろう。この道は、西国街道の裏街道で、



深江本町3丁目の踊り松地蔵は素朴で愛らしい。左は高梁川。

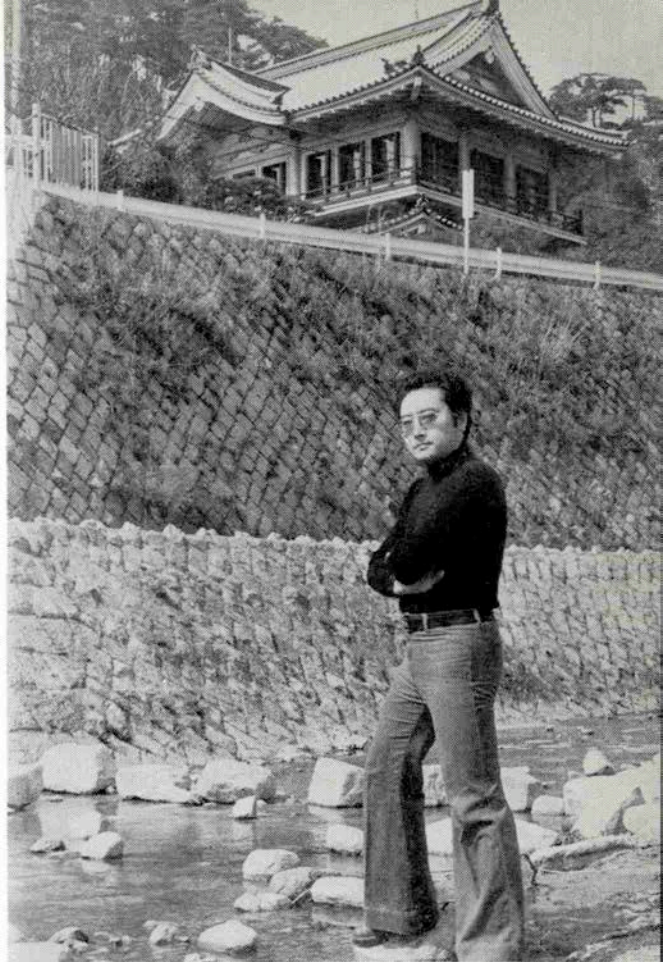
今の国道2号線が本街道にあたる。西宮神社で二つに分れ、西灘あたりで、再び一本となる。この裏街道を西へ二〇〇メートルほど進むと、本庄小学校の校庭に、松が十本ほど並んでいる。街道に昔から植えられていた松並木の名残りだそう。今では松並木のそばで、旅人ならぬ小学生が、喚声をあげて遊んでいた。もとの稲荷筋に引き返す。国道43号線の陸橋を

渡ると、海が間近だ、商船大学の練習線進徳丸が白い姿を浮かべているのが、右手の視野に入っている。東部市場へ入るまでに橋がかかっている。この橋までが、以前は砂浜だった。短かい突堤が伸びていて、そこから海に飛び込んだものだ。左手視線を転じると、昭和三十年代につくられたコンクリートの堤防が、一部道端に残されている。

夕方になると、酒恋しや人恋しやで、よくこのあたりに出かける。堤防の前に、赤れんがの窓から海の見えるレストラン「アポロン」、灘酒を吞ませる鍋ものの店「灘っ子」がある。今日も「灘っ子」をのぞいた。いつもは灘酒ばかりなのに、今日は珍らしく小鼓がおいてある。私の故里・丹波の銘酒だ。さっそく熱燗で、一本注文。神戸肉のしゃぶしゃぶでもやるとするか……。



「灘っ子」で灘の生一本と丹波地酒“小鼓”をのむ春木さん



幼い頃の風情が残っている住吉川河原、白鶴美術館はお気に入りの場所。

●メモ

音楽界で多才に活躍中の朝比奈千足さんは岡本のマンションにお住まい。洒落たセンスと落ち着いた雰囲気この界限が大好きだとか。京美人の加代夫人もピアニストの素敵な音楽ご夫婦です。

<コース>

白鶴美術館→住吉川・河原(きれいなせせらぎ、お弁当が欲しくなる)→甲南大学裏手の静かな小径→小川の流れるバス通りから住吉川に沿って下る→阪急電車岡本駅南側近代的ビル街→西洋風めしや「ドッコ」→阪急ガードわきのお好み焼店「大雄」

## 私自身の神戸〈2〉

# ふれあいある町

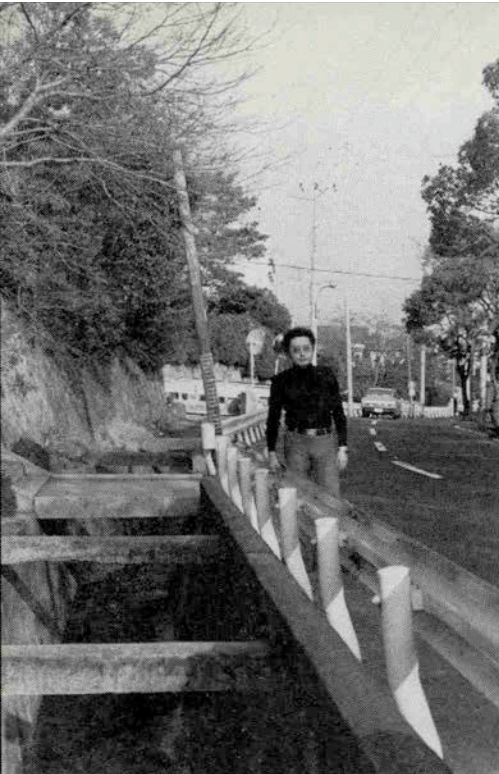
朝比奈 千足〈クラリネット奏者〉

もう「おらが村」という感じまでにはすっかりこの土地が気に入ってしまいました。ここに住みはじめたのは結婚してからですから、まだ四年にしかありませんが……。岡本はいわゆる郊外の住宅地というだけでなく、近代的な都会のセンスもちゃんと持ちあわせてい

ます。しかも不思議なことに、甲南大学をはじめ各学校の学生達が毎日行き通う町であるにもかかわらず、「学生街」的雑雑さがないのです。それにしてもここには麻雀荘が少いんですね。ではまず僕の子供の頃の思い出の場所から案内いたします。あの

白鶴美術館がある辺りの住吉川は、まだ昔のまんま残っています。小学校の時、よく写生に来たり、六甲山へハイキングに行くのこの河原から登りはじめたりしたものです。それから、ここからの大坂湾の眺めは、あの当時はきっと今より何倍も素晴らしいものだったろうと思います。でもそんな景色より弁当の中身と石の下のサワガニが興味のもっぱらの対象でした。そういうわけで、天気の良い日で気分転換したいと思った時には、よくこの美術館を訪れたついでに、その下の河原までおりにくことがあります。

甲南大学の裏手の静かな小径



静かな阪本界隈は絶好の散歩道です。お勧めのデートコース。

も、最近僕のお気に入り入りの散歩道になりました。バス通りの一筋山側は、普段からあまりひと気がないので、デートには最適だなんて声もあります。道は勿論アスファルトが敷いてありますが、とにかく田舎の風情ではあります。阪急電岡本駅を下車して、すぐ南側の道をブラブラ行きますと、急に新しいファッショナブルなお店がたくさん並んでいるのにちよつとびっくりさせられます。有名なサンドウィッチの店、洒落た舶来専門の小物屋さん、味も値段もかなり上等なおすし屋さんとか。まあ神戸の六本木といった感じですが、本当はもつと岡本にびつたりといった、やや地味だがそれでいて職人気質を感じさせるお店の方が僕は好きです。

食いしん坊なのでどうしても食べる所ばかりになります。まず、手際のいいことでは天下第一品のご主人が、たった一人でやっている「西洋風めしや」のドッコ。十人もいっぺんに来られたら、もう座れなくなるカウンターだけのお店です。女房が晩ごはんを作るのをサボった日には、よくここでブタ肉のしょうが焼とかグラタンなんてを食べます。とにかく一度に三種類ぐらいの料理なら平気で、アツという間にできあがるの



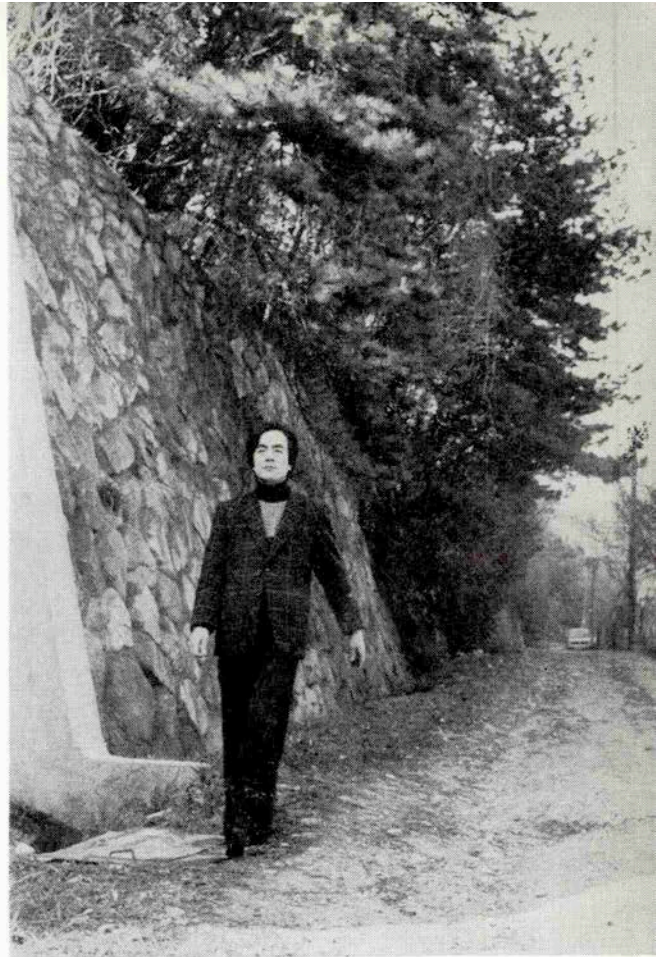
お好み焼きの美味しい「大雄」にて(右は加代夫人)

を見てみると、あれでよくゴツツヤにならないものだといつも感心させられます。

夜遅くなつてからの帰りに、ちよつとオナカが減ることがあります。そんな時よく立ち寄る店が大雄というお好み焼屋さんです。このご主人は僕の小学校の時の先輩だそうで、奥様も一緒にやっていてとっても美人。お好み焼きはぶ厚くてアツアツ。特に変わった店がまえでもないし、ご主人が愛想がいいわけでもないのに何となく気に入っています。十二間通り、阪急のガードわきにある小店です。この界隈では、五月の訪れと共に、「岡本村」の村祭りが出るダンジリのお囃子の音が聞えてきます。また夏の終りには盆踊りも催されて、ここの人々の心のふれあいが保たれています。

神戸の、ちよつぴりなつかしいふるさとに愛着を感じます。





神戸大学の構内は坂道ばかりだ。本部横の小径。

## 私自身の神戸〈3〉

くだ

# 六甲、坂を下ると：

鈴木正幸〈神戸大学教育学部助教授〉

「坂」は上りつめれば山であり下りを辿れば海でなければならぬ。その振幅の大小が、坂のある街の特性を規定する。その最も小さなスパンの中に、自然・歴史・文化の生み出すありとあらゆるものが内包されている魅力、それが神戸の魅力である。

六甲にある私の家から十五分で六甲山に上り、牧場で遊ぶかともえば、下れば十分で摩耶埠頭にて外洋船を楽しむことができる。六甲は坂のある街の原点である。

教育学部の建物は、神戸大学の中でも一番高い所にある。その四

階の研究室から眺む港の景色は素晴らしい。晴れた日には淡路を眼下に遙か紀伊水道まで見渡すことができる。夜景の美しさは描写のすべを知らない。どういいうわけか、年に数回、信じられない程美しい輝きを発する夜がある。

以前、大学の新聞に六甲味案内を書いたせいか、食い気中心に六甲を紹介せよとの編集子の注文である。

コーヒーは、家でのむことが多い。毎日通っていたルームがママの都合で店を止めたからである。比較的よく行く店に、石屋川のにしむらがある。場所柄、頼る庶民的な客層で北野店と対照的である

●メモ／取材一日目は鈴木先生の愛車マークIIで、教育学部を出発。坂を下へ下へ降りてグルメ探索となる。ハイジ、グローアル、にしむら珈琲石屋川店等。その合間に（翌朝のための？）パンをヌーベル六甲で買うという妻妻振り。取材二日目はその紀子夫人もご一緒に、晩の食事の買い物のお手伝い。

が喫茶店としては一級である。又  
ーベル六甲はチマチマとして全体  
にゆとりがないが伽羅木には時々  
出かける。一寸すましたんはトア  
ロードのんとは別の顔をもつ。珍  
しくいい音を出している。

六甲にはケーキやパンの店が多  
く、数え上げればきりがいい。ハ  
イジの前田社長と以前から懇意に  
している。彼の独特な味哲学は語  
らせること止まらない。新製品に取  
りくむ真摯な姿勢を持ちつつけて  
ほしい。このチョコレートは東  
京でも評判になりつつある。女子  
学生にバトロを薦めて感謝されて  
いる。老夫婦の手づくりの味は神  
戸ならではのである。値段が安い  
がよい。フルカワは六甲でフロイ  
ントリーのケーキとパンが食べ  
られる店として重宝である。  
和菓子については神戸のレベル  
は全般的に低い。六甲山系のうま



グロアール。ママ(右)と紀子夫人

い水が神戸市民に飲まされないと  
ころにお茶とお菓子がよくならな  
いのではなからうか。熊内通りの  
つる屋本舗に足を延ばしていたが  
近ごろは阪急三宮店に叶匠寿庵が  
入り、大阪にまで行かずにすんで  
有難い。食べる方では、グロアール  
によく行く。目立ため店構え(弓木  
町交差点西)にママとオバアちゃん  
の心のこもった味が楽しめる。  
奥の部屋を借りて学生と昼食会を



阪急六甲北側のヌーベル六甲。ここでパンを買う。

時々している。逆巻きで知られる  
ようになった寿し一、我が家の住  
人スミちゃん(美人猫、名前は三  
宮のスナックのママからとる)の  
実家かつば天国にもよく行く。う  
どんとそばの椿寿亭を紹介して、  
美味求真の大嶋老師から激賞され  
た。三宮自由軒との長いおつき合  
いの関係で、六甲自由軒にも時々  
出かける。うまくて安くて学生に  
評判がいい。御影公会堂前のおで  
んとうどんの屋台は、午前四時ご  
ろまでやっていて便利。屋台なが  
ら一級の味である。名前がなく、  
命名を依頼されているが未だいい  
名前が思いつかない。大学祭でこ  
このおでんとハイジのケーキで模  
擬店を出したところ大当りであつ  
た。焼肉では阪急西灘駅の末広が  
いい。六甲にグリメのようなサン  
ドイッチのおいしい店があれば女  
子学生で繁昌すること間違いない  
と思うのだが。



元町のフルーツショップ「サンワ」の前で「おじさん、これ2つちょうだい」

●メモ

期待される若手ピアニストの伊藤ルミさん。神戸生まれの神戸育ちで、神戸がとっても好きという彼女、毎日の練習の合間に神戸の町まを散策しながらショッピング。なかでもなじみのお店が多い、ゆったりとした元町が大好き。〈コース〉

大丸前元町入口から1番街。すぐ山側の元町画廊で絵をみながら佐藤さんと談話。岡田シルクで生地をみて、大番ではレコード探し。神戸ヤマハで楽譜を買ってその前のデリラでサンドイッチと紅茶をたのしんでちょっとひと休み。待ち合わせたかのように顔見知りの人たちに出会う。そして風月堂ホールへ。

## 私自身の神戸〈4〉

# ゆとりを感じる元町

伊藤 ルミ〈ピアニスト〉

ピアノの練習に明け暮れる毎日。フツと思いついてショッピング。気分転換？ いえいえ憂さ晴らしかも。

さんちか・センター街をひとめぐりして目の保養。そして元町。

元町の好きなどころは通りの広いこと。右や左のショーウィンド

ウに気をとられながらキョロキョロしているときも、時間に追われていそぎ足に通るときも、まず人とぶつかることがありません。つまりマイペースで気のむくままショッピングできるところかな——

もっとも私の歩く時間帯はウィークデイのひるさがりなんです。

この元町通り、人の多いわりに混雑感がないのは、通り自体が適当にカーブしていて、はしからはしまで見通せないからということをきいたことがあります。それにそれぞれのお店の間口が広くて、天井が高いということも、ゆとりを感じさせるところかな。

建築には門外漢の私ですら、老舗の歴史を思わせる店構えや、思い思いの趣向をこらした店造りに気をとられ、ショーウィンドウの中をみるのがおろそかになることも再三です。

一丁目の山側、穴門筋に老舗の画廊があります。「元町画廊」で

す。ちよっと入りにくいムードですが入ってしまえば、街の雑踏とは無縁の静かな絵の世界。疲れた神経を鎮めてくれます。この穴門筋入口には、かまぼこの老舗「かねてつ」があります。このお店の前を通ると「てっちゃんてっちゃん」の聞きなれたメロディがうかび、しばし童心にかえったりします。少し歩くと「岡田シルク」。婦人既製服全盛の今、服地専門店が少なくなりましたが、中でも数の少ないステード用生地を大量にそろえているありがたいお店です。そういえば、私のはじめての有料の会のドレスもこの生地で作ったものでした。その向いはレコードの『大蓄』。電話注文でレコードをとりそろえてくれ、時には廃盤になったものまで広い販売網で探してくれそうです、ここも私にとってありがたいお



心鎮まる元町画廊で。右が佐藤廉さん。

店。  
歩き疲れてちよっとひとやすみの時は、「二つ茶屋」、「あじさい」、「ディラ」などで。食事は「つるてん生楽」、「みの幸」などに腰をおちつけます。

さて、三丁目浜側に、一昨年末『風月堂』が新築されました。このビルの地下に小ホールができたときいたとき、うれしい予感がありました。その予感が現実となった



風月堂ホールで試奏する筆者

のが、この一月、ここで開かれた諏訪根自子ヴァイオリンコンサートです。SAC三宮アルペンクラブ（または三宮アルコールクラブという人も）の主催、地元の音楽愛好家の暖かい協力を得て大成功に終わることができました。これからもこのホールを中心にユニークな催しや集いが生まれてくれれば、と願うのは私ばかりではないと思います。

戦無派の私にとって、昔の元町は話でしか知ることができません。けれど、神戸に立ち寄る外国人、神戸に住んで母国に帰った人々が神戸といえは「モトマチ」といって、懐しんだ街であったとききます。

「もとまち」。旧くからの神戸っ子の街。これからもファッショナブルでインターナショナルな街でありますように……。



ブルームーンをあなたに……（サムホールにて）

## 私自身の神戸〈5〉

# 坂のまち、薫りの町

白石 弘子（染色家、「がれりあ馬亞乃」オーナー）

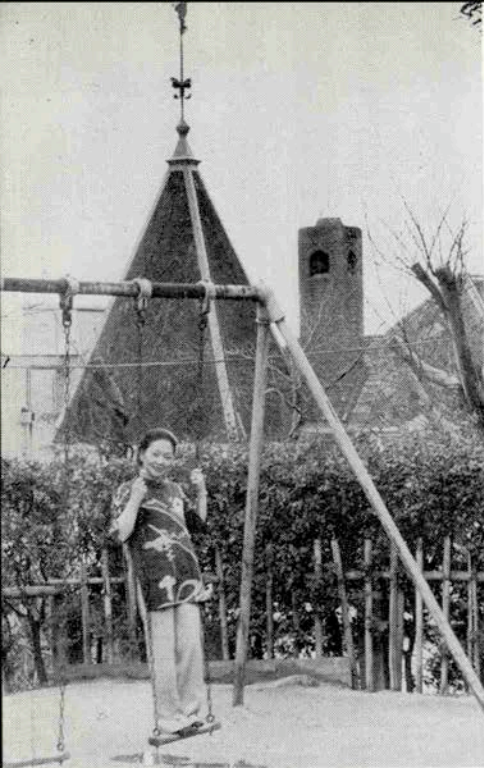
冬のなごりの山茶花の花びらが、風のまにまに落ちてくる。またたくまに、坂の小道が薄紅色に染まってゆく。そして風に吹きよせられ小さな疎水に流れおちる。下水を通していつか港にながれつくのだろう。昨夜来の雨に洗われ坂の小道は美しい。この道はトー

アロードをのぼりつめ、神戸クラブを道なりにすぎると右手にひときわ大きな金木犀が目につく。白いマンションと金木犀の間にたつと、シユエケ邸の煙突を透して港がはるかにみえる。人目につかない小道なのに画人がひっそりとスケッチをしている。あ、沈下花の薫

り、もう春なのです。この道をトロトロ下りてゆくと異人館通り。東に少し歩き、高い石垣のある華僑總會を左にみて、なだらかな細い坂をのぼる。ふとふりむくと異人館倶楽部の三階の屋根と窓、そして中庭のうすもやのような若いみどりの樹々が絵のようだ。計算された演出にさすがと思いながら、白い異人館（小林秀雄邸）に向う。くすのき、と夾竹桃の繁みのある手入れの行き届いた庭をみながら玄關に上る。スリッパに履きかえて静かに館の内をみせていた。秋にはここで「木と染と織」の展覧会を開くことになり、今日はその下見もかねている。二階へ

### ●メモ

がれりあ馬亞乃～異人館通り（シユエケ邸、門兆鴻邸、華僑總會前）～白い異人館～北野町北公園～風見鶏の館、北野天満宮～ノア・アンティーク～麻布キヤンティ（異人館倶楽部）～バビエ・シフォン（同）～サムホール（ローズガーデン）～がれりあ馬亞乃



そっとブランコに身をまかせる（北野天神にて）

の階段の手すりには、織った布をかけ、その下の木の長椅子には渋い色彩のクッション、カーテンレールは木彫の飾り棚つきをしよう。生活の中に息づく会にしたいと希望がふくらむ。再び庭に出て隣りあった北公園のベンチから、キラキラと光る海をみる。すぐ右上には風見鶏の館、北野天神とつづいている。急な石段を上ってゆくと、静かな境内に小さなブランコが二つ雨上りの水たまりをさけてそっとブランコに身をまかせ。山の上の天神さんと異人館。不思議にとけあっているのです。可愛い五才位の女の子が近づいてくる。「大人はブランコにのったら、いかんのよ」と叱られる。ゴメンナサイとあやまる。裏山の梅林からはおそさきの梅がほのかに匂ってきます。春とはいえここは山のすぐふもと。風がさつと海にふき

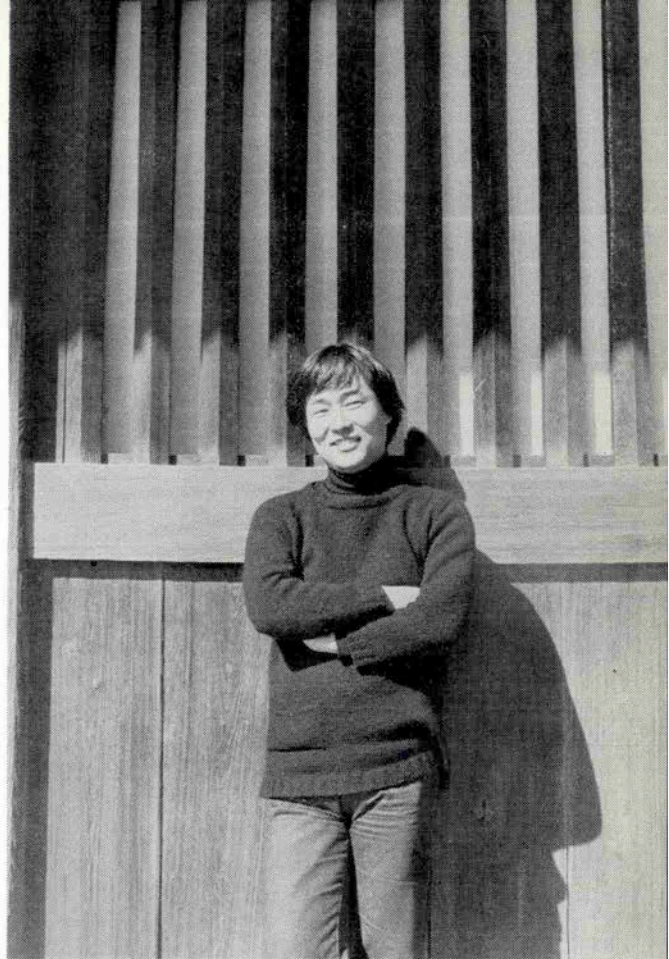
ぬけてゆく。北野通りの交番を左にハンター坂を下りてくる。シャレた店構えのノア・アンティックをのぞいてみる。店主は仕入れのためヨーロッパ行。留守居役のお父上に古きよき時代のガラスの小物を見せていただく、羨やましい品ばかり、店主の趣味の良さと高い選択眼はにくらしいほどうれしい。ハンター坂をもう少し下りると異人館通りに出合う右角が異人



小雨にけむる北野の坂道は、まるで絵のよう。

館倶楽部である。地下の麻布のレストラン、キャンティは私のすきな店の一つです。久々に歩いた故か空腹を覚え、早速おせいおひるに。田舎風のスープとスパゲティ・パジリコを注文する。和食好みの私にもこの料理は口にあいデザートにも心がこもっておいしいのです。すぐ前の可愛いお店「パビエ・シフホン」で姪のプレゼントにうさぎとペンギンの小箱にキャンディをつけてもらう。これにローズガーデン一階の「サムホール」のバラ「ブルームーン」を添えて贈ろう。きっと大よろこび……。

どんな坂を上っても、ふとふりかえると海がみえる。北野はそんな町です。春は沈丁花、秋ならば金木犀の匂いのする町でもあるのです。こんな町がすきで私は毎日を生きています。雨の日の静かな町を歩いてみて下さい。



祥福寺の境内でちょっと気取ってポーズを。

●メモ

平野は盆地になっていて、川崎造船所に勤める職工さんや職員の人々が住み新開地、淡川公園、円山市場と一大近隣商店ができあがり発達した街だ。この街に生まれ育った武田さんは少いながらも知人によく出会被われ、「こんには」の挨拶が絶えない。とても美味しいからと案内してもらった「うどん屋」がお休みで、それだけが心残り。下町で親しみ易い街です。

取材コース／平野 交差点→祥福寺(祥容庵)→祇園神社→淡川温泉(天王温泉)  
→家庭裁判所前→街角で武田夫人と子供達に会い武田建築設計事務所兼自宅へ

## 私自身の神戸〈6〉

# 浮世床も夢の跡

武田 則明〈建築家〉

神戸に住んでいる人でも意外と平野を知らない人が多い。都心に近い住宅地でありながら地形的な特長として六甲山脈と会下山や大倉山や海洋気象台の前山に囲まれた盆地になっているせいかも知れない。十年程前まで神戸に市電が走っていた。国道二号線の脇ノ浜

から三ノ宮そして栄町を通って楠公前を抜けて有馬道で北へ右折し楠六を通り県病前を通り平野終点に至る一〇系統が走っていた。

二十年以前は市電が市民の足で通勤者が毎朝長蛇の列をつくり停留所で次々に乗り込んでいるのを眺めながら平野小学校に登校した

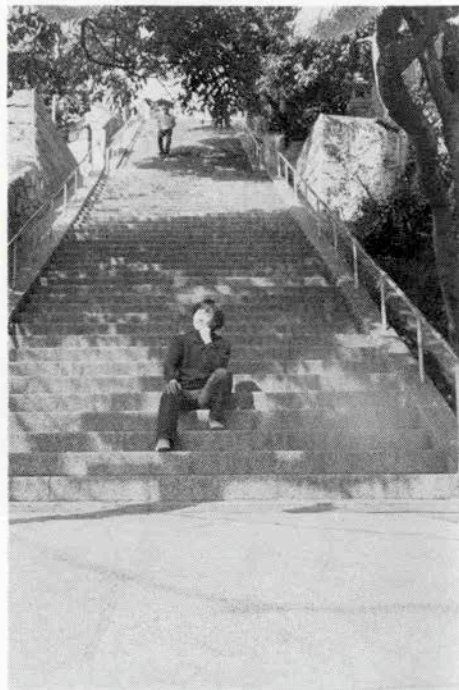
のを思い出される。

平野小学校の古い先輩に小磯良平画伯がおられ、戦前の講堂に画伯の絵が飾ってあったそうだが震災に会い、私は見たことがない。平野も何時から終点と言わずに交差点と呼ばれるようになったのだろうか。交差点から東へ山麓線をバス停一つ目が五ノ宮だが、これは神戸の一の宮神社から始まる五番目の神社がこのバス停から約二〇〇米程北側にあり、この神社の東側は梅元町と言い、その昔森本梅林がありこの地名が付いたそうだ。この森本家は神戸地下街の森本泰好氏の本家だそう。現存は梅林がなくなってしまうと地名だ

けになっている。

五宮神社の西隣に山田無文老師のいらっしやる祥福寺がある。禪宗の修業寺で葬式をしない寺ということになっているが、昨年私の息子がお世話になっている楠幼稚園の創立者であり前園長である山崎先生のお葬式を例外として取り行なっていたのだ。編笠をかぶり墨染めの僧衣でお経を誦えながら長い列を作って歩く雲水の姿もこの土地の風物詩だろう。山の裾を縫うように歩くと南さんや小曾根さんの大きな御屋敷が続き遠く会下山公園や新開地や川崎造船所が望める。

平野の交叉点を見降ろす奥に祇園神社がある。御存知の七月十四日が祇園さんのお祭りで多くの夜店が並び夏の風物詩として楽しみにしている。小学生の時は提灯を作り石段の両側に並べたものだ。



子供時代の遊び場、祇園神社の石段で。

この神社のすぐ南の天王川沿いに湊川温泉と天王温泉がある。早朝から開いている天然の温泉で、お年寄や毎朝登山の帰りに一風呂あびて、一日の仕事に出かけられる方も多いようだ。以前は脱衣室と下足入の間に広い部屋があり碁と将棋が常時、出来るようになっていて、常連のお年寄達が半日将棋をさしていた。落語に出てくる浮世風呂や浮世床の熊さん、八さ

んのが木造の温泉からコンクリートの温泉に建てかえられ近代化されてなくなってしまった。また復活したいものだ。

平野の交叉点から南へ昔五郎池の停留所があった所は今家庭裁判所前になって、池も地名もなくなってしまった。ここに緑色のドームの建物が目に入る。これは少年鑑別所で昔は神戸の証券取引所の建物で、周辺に銀行や事務所ビルが建っていた。現代は少年鑑別所の周囲が高い塀で囲まれ、地区のコミニティが分断している感がある。私はこのような施設はもつと住宅地から離れた場所に在る方が、少年にとつても、管理する側からも良いと思う。今ランドマークになっている緑のドームをむしろ地区の活動の中心の施設として開放し、このドームの下でロックフェスティバルでも開いたら面白いなあとと思うのだが。



幼稚園帰りに街角でばったり、武田ファミリーです。